

## 平成30年度 第2回燕市男女共同参画推進審議会 会議録

日 時：平成30年11月22日（木）午後2時00分～2時30分

場 所：燕市役所 2階 会議室201

出席委員：渡邊洋子委員、杉山博人委員、黒川優子委員、小林知弘委員、  
丸山朝子委員、宮路聡委員、柳原康浩委員、山田直子委員（8人）

欠席委員：清水麻子委員、中野弘行委員（2人）

事務局：企画財政部長、地域振興課長、地域振興課長補佐、地域振興課事務局3人

報道機関：0社

傍聴者：0人

### 1. 開会

### 2. あいさつ

### 3. 第3次燕市男女共同参画推進プラン

実施項目・評価シートに関する確認事項について

（会長）

本日は雨の中、お忙しいところお集りいただきありがとうございます。下町ロケットのロケということで、私も少し気持ちが引かれております。

男女共同参画社会という言葉はずいぶん言われて親しいですが、女性活躍社会と最近言われるようになりましたが、政治や社会の大きな枠組みの中では女性の大臣が知らない間に1人になってしまい、1人で3人分活躍していただくという話になっていたのに国会では全然違うことになっていたり、医師の世界では、入口と出口で、出口を出た後に大変な状況になるよりは入口を締めた方がいいだろうという議論になっていたり、女性活躍という言葉がどれだけ難しい社会なのかということを感じさせられる今日この頃ではありますが、大きな枠組みというよりは、むしろしっかりと地に足をつけたところで、先ほども市議が1人から2人、1人ずつ増やしていけばいいですね。何事も0から1は大きいですし、1から2も大きいですし、さらに女性が活躍でき、女性と男性がいきいきとともに働き、歩んでいける燕市にしていくために委員のみなさま、引き続きご尽力ご協力をお願いいたします。

早速、次第に沿って進めてまいりたいと思います。

次第3. 第3次燕市男女共同参画推進プラン実施項目・評価シートに関する確認事項についてです。事務局、説明をお願いします。

<事務局から第3次燕市男女共同参画推進プラン平成29年度評価についての説明>

<質疑応答>

（会長）

ただいま事務局から説明がありました内容について質問、意見などありましたらご発言いただきたいと思いますがいかがでしょうか。

(委員)

H29年度の児童館事業の、男子学生の割合になって数値が変わったのはいいのですが、事業の内容に関する文章も変わりましたよね。そして特記事項のところの参加人数も変わっていますが、これは何が変わってこの数字が出たのか教えていただきたい。

(事務局)

文章は変わりました。人数につきましては、前回シート作成後になりますが、精査した結果数字に誤りがあったとのことで、今回併せて修正させていただきました。

(委員)

分かりました。

(会長)

H29年度の児童館事業が男子学生の割合に変更したことで達成率が0%でA欄の評価が『未達成』になったとのことですが、これをどう評価するかというところで、事務局から説明のあったとおり、数値による結果だけではなくプロセスを大事にした形でB評価にしたいとのことですが、これについてみなさんご意見はありますか。

他の意見が出る前に私も一言。留意点等で男子学生や生徒が参加しやすいよう周知を工夫するということを目標にして、結果0%だったということは、先ほどの事務局の説明によるとその反省を踏まえて次の工夫をされていると思いますので、ここにもきちんとふりかえりをして原因を探って次に向けての改善策を考えたということがここにも書かれていると、達成率が0%だけどその重みを受け止めて次に向けたプロセスで取り組みされているということが分かり、B評価の説得力がでると思います。

(事務局)

はい、前回の審議会で、シート下段の『成果または効果・今後の課題』のところにふりかえりや今後どうするかを記載しようというご意見をいただきました。H29年度分は他のシートに合わせてこのままそういった記載はありませんが、H30のシートからそのように指導していきたいと考えております。

(会長)

分かりました。つまり何が原因だったのかをここで検討されたということが大事だと思いますので、開催日時ですとかスタイルなどの設定の再検討が必要だということがここに書かれていると、原因究明して0%が次に活かされたという風に読み取れるのかと思いました。

(委員)

前回の資料を持ってこなかったのですが、確かここに挙がっている他に0%のものはありませんでしたか。確か自主防災か自治会の役員という関係だったと思いますが、ここには挙げないのでしょうか。

(事務局)

0%のものは3つございまして、防災関係ですと『防災リーダー養成講座』で女性の参加者数というものでしたが、今年は女性だけを対象とした『女性防災リーダー養成講座』として実施済みで好評を得ています。

(委員)

私も地元の町内で意見交換をする場面がありますが、その中で、自分たちの町内もなかなか難しいと、分かっているけど人材がいないと。前回、確かあまり芳しくない推進率のシートがあったように記憶しております。それが、また角度を変えた取組を盛り込んでいるのかどうか確認したい。また同じ取組で推進率が上がらないでは意味がないです。難しいことは承知していますが。

(事務局)

3次プランの評価シートでは、『地域における女性役員の登用啓発』などがございますが、こちらの指標は啓発回数であり、年間2回の想定のところを実績が1回ということでA欄が『未達成』となっております。例えば地域の活動への参加率といったような指標にはなっておりません。

もしくは、また違った視点として『各種審議会等における女性委員の割合』という評価結果を資料として出したと記憶しております。

(委員)

確か名称も少し変わったような気がします。

(事務局)

名称が変わったのだとすると、やはり『防災リーダー養成講座』だと思います。こちらは確かに女性の参加者10名を目標としておりましたが0名になっており、これを今回は『女性防災リーダー養成講座』として、女性のみ参加対象に変更しております。

(委員)

分かりました。

(会長)

他にないようであれば次の、次第4.その他です。

#### 4. その他

<審議会に関する事項 事務局説明>

#### 5. 閉会

(会長)

私も会長ということで司会を務めてまいりましたが、いろいろとご協力ありがとうございました。それでは、本日も予定しておりました会議の内容は終了いたしました。

任期を終えての感想ということで事務局から言われていますが、ありがとうございましたとしか申し上げようがないのですが、そうですね、やはり、先程少し申し上げましたが、日本社会は本当に先進国の中で女性の活躍率のようなものが144カ国中114位で、女性医師もOECD加盟国の中で最下位です。国家試験の 때가3割で、30代40代と段々と下がり全体の2割ぐらいで抑えられている。社会全体の仕組みとして難しいのだろうと思っていたところ、入口レベルでガラスの天井が在ったということが、なんとなくみんな知ってはいたけど、あからさまになったことで、9月にカナダの全国女性医師会の会合に参加させていただいた際に、「ニュース見たわよ」と、国際的

に日本という社会はそういう社会なのだと、女性が活躍しようとするのがガラスの天井があり突き抜けることができないことが、本当の専門職のレベルでもそういうことなのだとあらためて実感されておりますが、そこを問題だと言っているだけではダメで、地域という足場でしっかりと女性が力をつけて力を発揮するだけではなく、男性に任せきりで男性が負担を背負い込んで大変だったところを、男性もいきいきのびのびと力を発揮していただいて、性別に縛られずに一人ひとりがのびのびと力を発揮していただける、そんな地域をまずはつくっていくということがすごく大事だと思います。

大学で学生と話していても、たくさんのいろんな情報は入ってきますが、意外と自分のこれからの生き方や生活の仕方というところと全くリアリティがないのです。就職活動や、実際に社会人になって家庭を持った時、いろんなことに初めて直面したかのような、今まで勉強してきたのは何だったのかというような現実があるのだと思います。でも、地域の中でいろんな方が一生懸命仕事や活動をされて、お互いを尊重し合って良いものをつくっていきこうという姿は、若い人達には良い影響があると思います。大学で何かを教えてもらうのではなく、地域の身近な人達から学ぶということで成長する部分はあると思います。そういう意味で、大学と地域が連携しながら次の世代を育てていかなければならないと自覚していますが、大学に発破かける意味でも、地域の方でもいろんな新しい価値をつくっていただいて、一緒に良い地域社会をつくって、地域から男女共同参画を、絵に書いた餅ではないリアルな男女共同参画とはこういうものなのだというところを、燕市は女性も男性もしっかり働く地域をつくる土壌があると思いますので、ぜひこれからも一緒に頑張らせていただけたら幸いです。以上をもちまして、閉会とさせていただきます。本日は大変お疲れ様でした。

以上